

2017 年度企業家研究フォーラム賞選考について

企業家研究フォーラム賞審査委員会委員長

原 拓 志

著書の部

著書の部では、次の作品が受賞作となった。

筒井 正夫（滋賀大学）著

『巨大企業と地域社会——富士紡績会社と静岡県小山町』

（日本経済評論社，2016年11月）

本書は、富士紡績会社を対象に、その明治期の経営展開の実態とそれを可能にした地域社会の独自の対応のあり方を、主力工場である同社小山工場と静岡県小山町の地域社会との相互作用を描くことで実証的に明らかにし、地域社会において巨大企業が展開することの経済史的・経営史的・社会史的意義を全面的に論じた力作である。経営史研究と地域経済史研究を統合することを通じて、地域社会と共存しつつ持続的に発展する企業の姿を長期的な視点から描くことに成功している。経営史・地域経済史それぞれに関する研究水準も高い。

論文の部

論文の部では、残念ながら該当者がなかった。

特別賞

特別賞は、神戸大学名誉教授、甲南大学特別客員教授の加護野忠男先生に差し上げることを決定した。

加護野忠男先生は、第24回日経・経済図書文化賞を受賞した『日本企業の多角化戦略』（共著）や『経営組織の環境適応』など日本の経営学や組織論をリードする優れた研究を積み重ねてこられた。経営学の教科書や啓発書も多数著された。また、2005～2009年には組織学会会長を務められるなど学会活動にも大いに力を尽くされた。特筆すべきは、企業家研究フォーラムの設立に中心的に携わり、初代副会長として2002年～2015年の長期にわたって、宮本又郎前会長とともに会を牽引してこられたことである。現在も『日本の企業家』シリーズを宮本前会長とともに編集されるなど、継続的に企業家研究の発展に尽力されている。これら長年の企業家研究とその関連領域への多大なるご貢献に対し、会員の感謝の意を込めて特別賞を贈ることを委員会において満場一致で決定した。